

スピーカー

セッション 14-2

インプラント補綴におけるデジタルとアナログの融合

ミナミ歯科クリニック 藤本 光治



近年、欠損歯列における機能回復にインプラント治療が高いアドバンテージを有し、高い治療結果をもたらしている事は異論のないところである。

上部構造（補綴物）を作製するテクニシャンの立場から考えてみると天然歯補綴、インプラント補綴を問わず補綴物完成の目標は、機能的で清掃性に優れ、尚かつ審美的である事です。それらを達成するためには上部構造（補綴物）作製からトップダウンされたインプラント外科（埋入）の考え方がもっとも重要となります。本講演においてはインプラント外科（埋入）は上部構造（補綴物）による機能回復（咬合）の準備であるという観点に基づき今一度、従来からの補綴治療の概念を整理し現在のデジタルへの移行、取り組みについてもご報告させていただきます。

略歴

- 1985年 日本歯科学院専門学校卒業
歯科技工所勤務
- 1994年 大阪セラミックトレーニングセンター卒業
(医) 健志会 ミナミ歯科クリニック入社
- 1997年 歯科技工所開業
- 2000年 大阪セラミックトレーニングセンター 週末コースインストラクター
- 2004年 (有) デンタル・クリエーション・アート入社
- 2006年 (医) 健志会 ミナミ歯科クリニック入社
- 2007年 新大阪歯科技工士専門学校専攻科 非常勤講師
- 2008年 大阪 SJCD 臨床テクニシャンコース インストラクター

所属学会・スタディーグループ

- ・日本顎咬合学会 認定・指導歯科技工士
- ・大阪 SJCD 理事